

# ROKIN REPORT 2022



中央労働金庫  
ミニディスクロージャー誌

## 働くみんなの未来を描く、中央ろうきん。

〈ろうきん〉は、「安心・安全・健全」をテーマに、全力で取り組んでいます。

### ろうきんの基本姿勢

#### 目的 ろうきんは、働く仲間がつくった福祉金融機関です

ろうきんは、労働組合や生活協同組合などの働く仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合っただけでなく、協同組織の金融機関です。  
ろうきんは働く人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりに寄与することを目的としています。

#### 運営 ろうきんは、非営利・公平・民主的な運営の金融機関です

ろうきんは、労働金庫法に基づいて、営利を目的とせず、公平・民主的に運営されています。  
ろうきん独自の運営に共感する人たちの輪が、働く人の団体・市民の参加を得て、全国で1,100万人の人たちに広がっています。

#### 事業 ろうきんは、生活者本位の金融機関です

ろうきんの業務内容は、預金・融資・各種サービスなど、一般の金融機関とほとんど変わりません。しかし、ろうきんでは資金の運用が、生活者本位に行われているのが特長です。  
働く人たちからお預かりした資金は、住宅・マイカー・教育資金など、働く人たちの生活を守り、より豊かにするために役立てられています。

#### 中央ろうきんと全国ろうきんの状況 ※2022年3月末現在

	中央ろうきん	全国ろうきん(13金庫)
総預金残高	6兆8,813億円	22兆6,238億円
貸出金残高	4兆6,867億円	15兆190億円
出資金	289億円	972億円
団体会員数	11,812会員	49,403会員
間接構成員数	4,074,113人	11,804,193人
常勤役員数	3,175人	11,330人
店舗数	140店舗*	606店舗

\*中央ろうきんの店舗数には、バーチャル店舗(インターネット中央支店・中央ふれあい第一支店)を含みます。

#### 概要

名称	中央労働金庫
代表者	理事長 山内 達也
本店所在地	東京都千代田区 神田駿河台2-5
ホームページ	https://chuo.rokin.com
設立	1952年4月25日 (2001年4月1日合併)
事業エリア	茨城・栃木・群馬・埼玉・ 千葉・東京・神奈川・山梨

#### 商品・サービスについてのお問い合わせ

ハロー (ろうきん)コール  
0120-86-6956  
(営業時間:月～金9:00～18:00/土日祝休)

※本誌に記載した数値は原則として表示単位未満の端数を切り捨てています。また、比率等は原則として小数点第3位を切り捨てて、第2位までを表示しています。  
※更に詳しいディスクロージャー誌も店頭にご覧いただけます。

### 生活応援運動の展開

2021年度は、雇用環境・雇用形態の変化や人口減少、新型コロナウイルスの感染拡大等といった会員・組合員を取り巻く外部環境を背景に、会員・推進機構と連携し、生活設計に対する将来不安の払拭等、各世代の金融ニーズを踏まえ、金庫の強みとなる「対面」とデジタル化の推進による「非対面」を組み合わせた取り組みを展開してまいりました。

具体的には、会員・企業と連携し、組合員向け学習会等への参加を通じ、若年層に役立つ金融情報を発信するとともに、計画的な資産形成の重要性や可処分所得向上に資する低利で安心なローンの利用提案等を実施しました。

また、毎月第3土曜日の休日相談会や職場等での相談会を開催し、組合員の金融ニーズへの相談対応を実践したほか、退職後のライフプランを見据え、在職中からの資産形成・マネープランに着目した相談体制の強化に努めました。

2022年度においても、これまでの取り組みを更に発展させ、生涯を通じた会員・組合員への生活設計を支援する取り組みを展開してまいります。

### CSR経営の実践

2021年度の事業計画に基づき、社会的課題の解決に直接対応・関連するものをCSR議題として抽出・選定して取り組みました。

とりわけ、職域における「金融リテラシー向上」を最上位の重要課題と位置づけ取り組むとともに、地域での「金融教育」の取り組みとして、消費者問題や消費者行動をテーマとする大学の演習(ゼミ)への授業協力を引き続き行いました。授業では、実際に教授・大学生と活発な意見交換を行い、高等学校の新学習指導要領実施を踏まえた若年者向け金融教材(DVDおよびワークブック)『新・大人社会へのパスポート2』を制作しました。2019年度と同プロジェクトにて、2022年4月の民法改正(18歳成年)を踏まえて制作した前作『新・大人社会へのパスポート』と併せて、学校や行政機関、各地の消費生活センター等へ提供するとともに、誰でも視聴できるように金庫ホームページでも公開しています。

そのほか、「環境配慮」「人権配慮」「社会貢献活動」など、主管部・関係部が連携して取り組みを推進しました。



若年者向け金融教育DVD&ワークブック



### SDGsへの取り組み

SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」や、全ての人々が必要な金融サービスにアクセスでき利用できる状況をめざす、いわゆる「金融包摂」の考え方は、〈ろうきん〉の設立経緯や「ろうきんの理念」、「ろうきんビジョン」と合致するものです。

〈ろうきん〉業態では、SDGsの実現に向けた取り組みを展開するにあたり、「ろうきんSDGs行動指針」を2019年3月に策定しました。

〈中央ろうきん〉においてもこの指針に則り、労金運動を通じて勤労者の生活向上という、〈ろうきん〉の使命を徹底追求することを通じて、〈ろうきん〉に期待される協同組織金融機関としての役割発揮とSDGs達成に向けて取り組んでいきます。



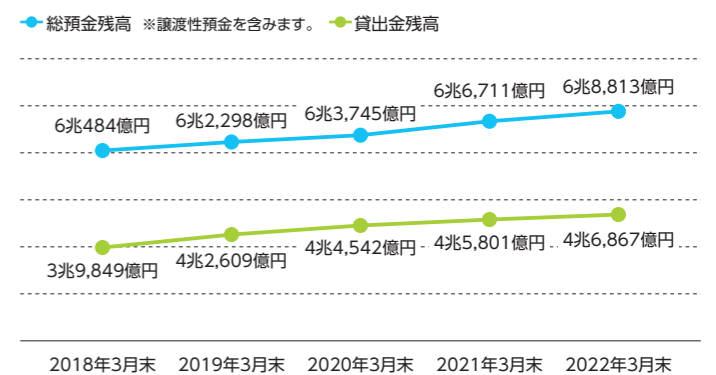
### 預金・貸出金残高の推移

〈中央ろうきん〉の総預金残高は前年度比2,102億円増加し、6兆8,813億円となりました。貸出金残高は前年度比1,066億円増加し、4兆6,867億円となりました。  
その結果、2022年3月末の預貸率は68.10%となりました。

総預金残高 **6兆8,813億円**

貸出金残高 **4兆6,867億円**

#### 総預金・貸出金残高の推移



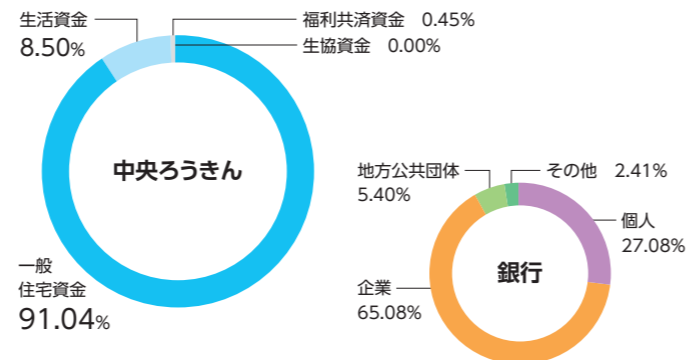
## お預かりした預金の使いみち

〈ろうきん〉は営利を目的としない金融機関。皆様からお預かりした預金の使い方も、一般の銀行とは大きな違いがあります。銀行が65.08%を企業に融資しているのに対し、〈中央ろうきん〉は、99.54%とそのほとんどを個人のお客様にご融資しています。働く人々の生活をより豊かにするために役立てられているのです。

個人のお客様へのご融資（一般住宅資金+生活資金）

**99.54%**

## 貸出金使途別割合 ※2022年3月末現在



※2022年3月末現在/日本銀行統計データより算出。

## 経営体力

自己資本比率は、金融機関の自己資本の状況が適当であるかどうかを判断するための基準として法令により定められた指標です。

〈中央ろうきん〉のように、国内業務のみを行う金融機関の自己資本比率は、法令で4%以上（国内基準）であることが求められています。

〈中央ろうきん〉の自己資本比率は9.01%となっており、国内基準の4%を大きく上回っております。

自己資本比率

**9.01%**  
※2022年3月末現在

## 自己資本比率 (単位: 百万円)

項目	2021年3月末	2022年3月末
コア資本に係る基礎項目の額 (A)	309,368	316,544
コア資本に係る調整項目の額 (B)	1,814	2,338
自己資本の額 (A) - (B) = (C)	307,553	314,205
リスク・アセット等の額の合計額 (D)	3,478,426	3,483,839
単体自己資本比率 (C) / (D)	8.84%	9.01%

## 経営の健全性

経営の健全性をはかる指標のひとつに、不良債権比率があります。これは、貸出金額に対して不良債権がどれだけあるかを示したもので、低い数値ほど資産の健全性が高いことを意味しています。「不良債権」は、何らかの理由により、約定通りの返済が困難な取引先に対する貸出金のことです。

〈中央ろうきん〉の不良債権比率は、0.57%ときわめて低く、健全性の高さが数値に表われています。

労働金庫法及び金融再生法上の不良債権比率

**0.57%**

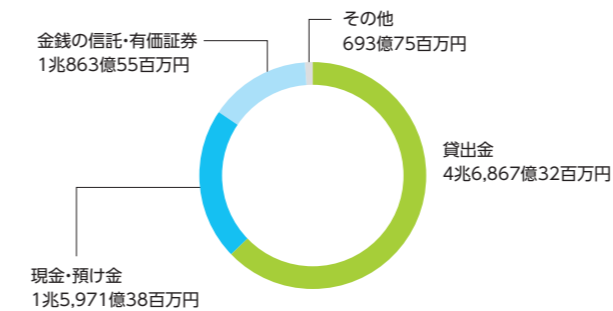
※2022年3月末現在

## 労働金庫法及び金融再生法上の不良債権比率 (単位: 百万円)

項目	2021年3月末	2022年3月末
労働金庫法及び金融再生法上の不良債権 (A)	28,280	26,866
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,699	7,128
危険債権	19,252	18,675
要管理債権	1,328	1,063
三月以上延滞債権	1,135	961
貸出条件緩和債権	192	101
正常債権	4,554,448	4,662,260
総与信残高 (B)	4,582,728	4,689,127
労働金庫法及び金融再生法上の不良債権比率 (A) / (B)	0.61%	0.57%

## 資産の内訳 ※2022年3月末現在

「資産」とは、皆様からお預かりした資金の運用状態を示す諸勘定のことです。主なものに貸出金や預け金があります。

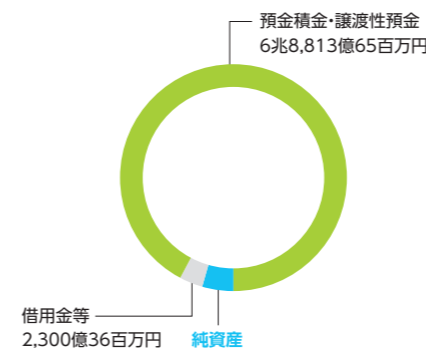


資産合計

**7兆4,396億1百万円**

## 負債・純資産の内訳 ※2022年3月末現在

「負債」・「純資産」とは、資金の調達形態を示すものです。「負債」の主なものとして預金積金があり、「純資産」には出資金、利益準備金など下記の①～⑤に記載するものがあります。



純資産

3,281億99百万円

① 出資金	289億91百万円
② 利益準備金	293億32百万円
③ 特別積立金	2,351億5百万円
④ 当期末処分剰余金	126億58百万円
⑤ その他 (その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益・土地再評価差額金)	221億11百万円

負債・純資産合計

**7兆4,396億1百万円**

負債

7兆1,114億2百万円

純資産

3,281億99百万円

## 収支の状況 ※2021年度

貸出金利息などの	資金運用収益	695億11百万円
受入為替手数料などの	役員取引等収益	40億17百万円
国債等債券売却益などの	その他業務収益	42億29百万円
	その他経常収益	7億88百万円
<b>経常収益</b>		<b>785億47百万円</b>

預金利息などの	資金調達費用	24億21百万円
支払為替手数料などの	役員取引等費用	127億76百万円
国債等債券売却損などの	その他業務費用	5億36百万円
人件費・物件費などの	経費	486億0百万円
	その他経常費用	9億64百万円
<b>経常費用</b>		<b>652億99百万円</b>

**経常利益 132億48百万円**

特別利益 1億7百万円

特別損失 3億80百万円

**税引前当期純利益 129億74百万円**

法人税、住民税および事業税 30億75百万円  
法人税等調整額 2億99百万円

当期純利益

**95億99百万円**